

学生の読む力と書く力を 高めるために

愛媛大学教育・学生支援機構

教育企画室

上月翔太

kozuki.shota.vc@ehime-u.ac.jp

SPOD-FD調査研究プロジェクト

- 研究課題「学生の読む力と書く力を高める教授法・授業設計・カリキュラムデザイン」
- 研究メンバー
 - 上月翔太（愛媛大学・研究代表者）
 - 蝶慎一（香川大学）
 - 飯尾健（徳島大学）
 - 加藤朱莉（新居浜工業高等専門学校）

本研修の目標

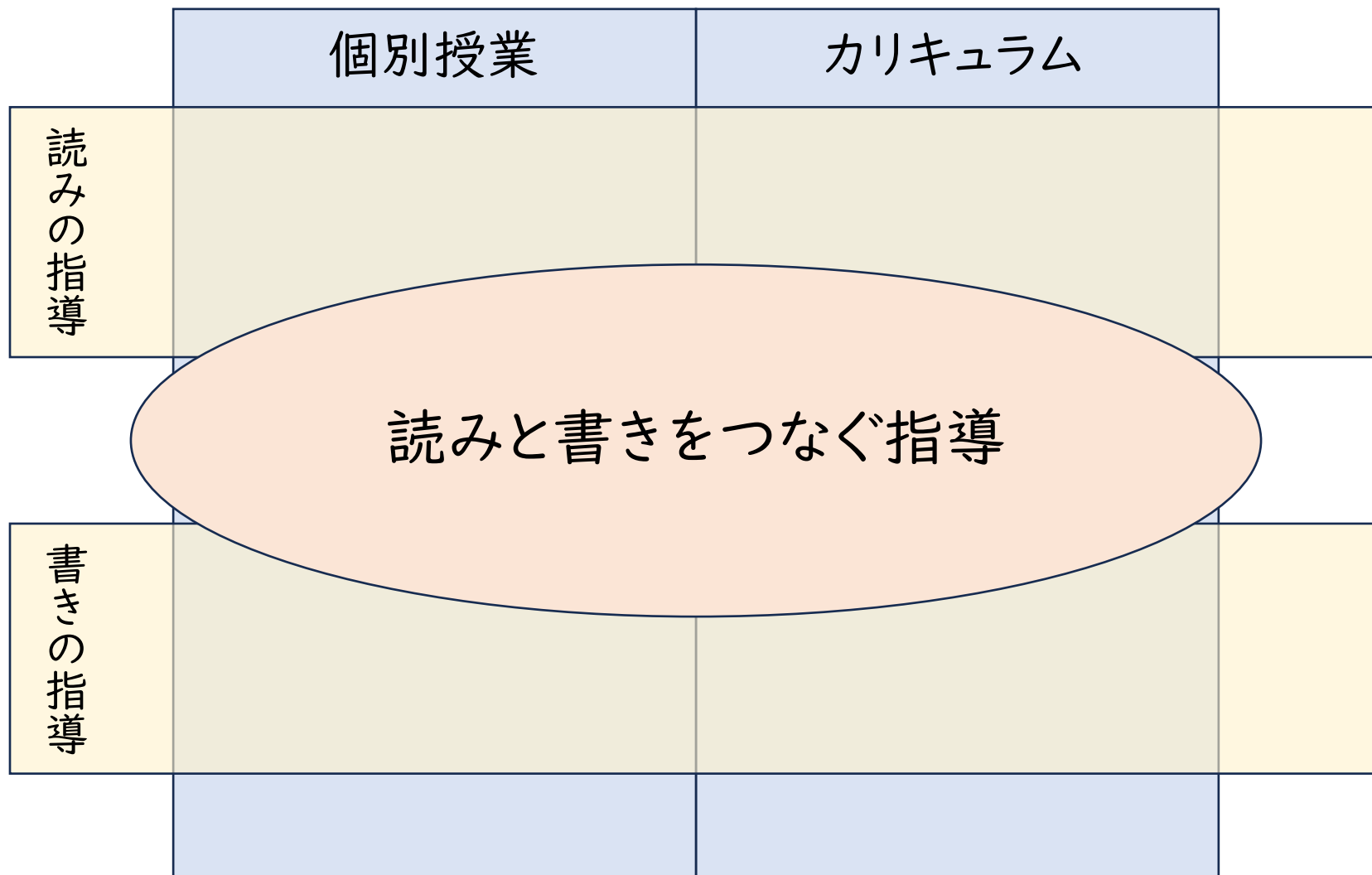
- 目標（シラバスから）

- 1. 自身のライティング指導（ライティング支援）における目標を具体的に定めることができる。
- 2. ライティング指導の留意点や工夫の方法を1つ以上挙げることができる。
- 3. 学生の読書の量と質を高める方策を挙げることができる。
- 4. 書くことと読むことの指導における生成AI利用の方針を挙げることができる。

- 構成

- 書く力と読む力を高める授業と支援
- カリキュラムからのアプローチ
- AIを前提とした教育

本研修のスコープ



書く力と読む力を高める
授業と支援

大学教育におけるライティング

種類	説明	例
実用文	日常的な生活や仕事で用いる種類の文章	手紙、メール、ビジネス文書など
アカデミック・ライティング	学術的な知見を一定の型に従って伝える文章	研究論文、実験レポートなど
プロフェッショナル・ライティング	専門職をはじめとした特定の領域で求められる文章	技術者にとっての技術書、法曹にとっての法律文書など
パーソナル・ライティング	経験や感覚に根差した自己省察のための文章	エッセー、振り返りレポートなど
クリエイティブ・ライティング	フィクションをはじめとした芸術的な文章	小説、詩、シナリオなど

(追加) 職場におけるライティング

	アカデミック	ワークプレイス
目的	知識の生産、学術共同体への貢献 説明、分析、論証、考察、知見の提示	業務上の目的の達成、利益追求 報告、依頼、提案、説明、記録、調整、意思決定支援
主な読者	教員、研究者、学生 (同一か、近い専門性)	上司、同僚、他部署、顧客、利用者、取引先 (背景、知識、利害、権限、情報量が異なる)
ジャンル例	レポート、論文、学位論文、研究計画書	メール、チャット、議事録、報告書、企画書、提案書、販促資料、マニュアル
主体	個人による執筆が比較的多い 著者個人の成果として扱われることが多い	共同執筆、上司による修正、組織としての執筆 組織の文書として扱われ、個人名が表に出ない場合も多い
フィードバック	教員、指導教員、査読者などから受ける	上司、同僚、顧客、関係部署などから業務過程で受ける

逆向き設計で考える

学習目標

- シラバスの到達目標は何か？
- DPなど全学的な教育目標は何か？

評価方法

- どのようなライティングを課すか？
- どのような観点、水準で評価するか？

教育内容

- どのような文献を読んでほしいか？
- ライティングについて何を教えるか？

教育活動における位置づけ

「ハイスティクス・ライティング」
学習の評価に直接かかわるものが多い

成果物重視

実験レポート、
エッセイ、卒業論文

ふりかえりレポート、実習
報告書、エントリーシート

他者志向

レポートのアウトラインや
草稿、ピアレビュー

ミニッツペーパー、アイデアのメモ

自己志向

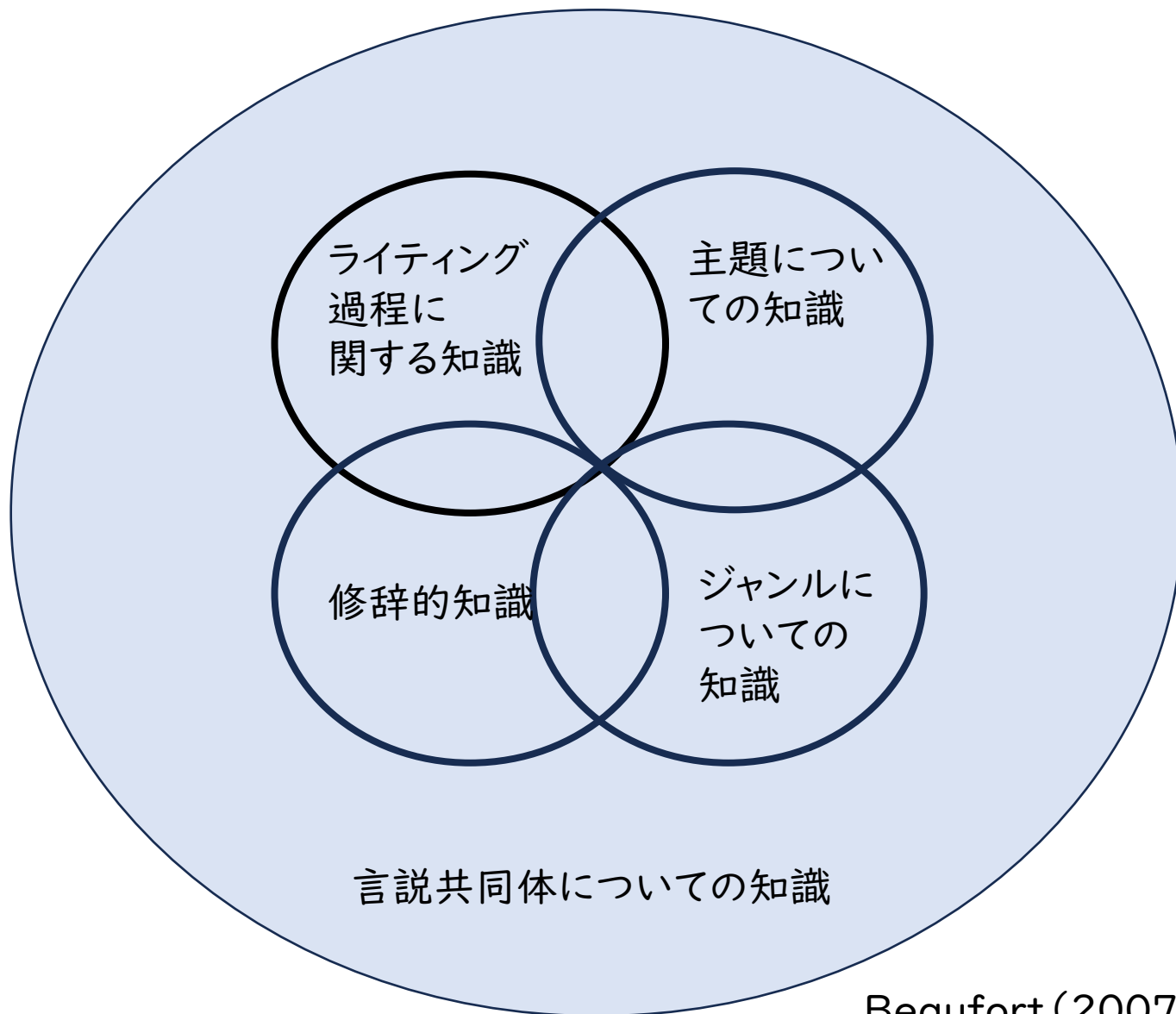
「パーソナル・ライティング」
主に自分自身の省察などを目指す

「アカデミック・ライティング」など
教員や他の学生などに伝えることを目指す

過程重視

「ロースティクス・ライティング」
主に理解と思考を深めることを目指す

ライティングに関する知識



Beaufort (2007)

ライティング指導の指針の例

・専門アカデミック・ライティング指導

- ・教員が学生のライティングに期待することを明確に述べ、専門分野の文脈に位置づける
- ・教員が自分の評価基準を専門分野・研究分野の観点から、また個人的選好という観点から内省し、専門ライティングの教育方法を考える
- ・学生の提出物に対して、できるだけ早い段階で学生に応じたフィードバックをおこなう
- ・学生が自分自身の「情熱」を見つけ、その情熱を専門内で実現する「専門家」となる手助けをする
- ・学生が書き手としての自分の成長について内省する機会を提供する
- ・学生が修辭的状况の多様性を理解し、それを探求する機会を提供する

学期全体で指導する

授業開始前

シラバス等で具体的なレポート課題を提示する



授業期間

レポートの見本やすぐれたレポートの具体例を紹介する
レポートを部分的に作成する
中間期に締切を設ける
形成的評価を実施する
他の受講生とのピアレビューを行う
ライティングにかかわる学習支援を紹介する



授業期間後

レポートの返却やフィードバックを行う

毎回の授業でのライティング

- 目的を明確に伝える
 - 学生の先行知識を引き出す
 - 学習内容や自分の思考を整理する
 - 知識の定着を図る
 - 授業全体を振り返る
- 適切な指示出しが重要
 - 時間を示す
 - 視覚と聴覚で設問を示す
 - どのように書くのかを明確にする
 - 次の学習活動を明確にする
 - 評価との関係を明確にする
 - 読み手を明確にする

ライティングの評価

- 到達目標との対応が前提
- 2つのアプローチを使い分ける
 - 減点式
 - 型がある程度定まっている課題
 - 評価基準を明確にしやすい課題
 - 水準を明確にするルーブリック
 - 加点式
 - 型が定まっていない課題
 - 個別性や独自性を評価する課題
 - 書いてほしいことを明示するチェックリスト

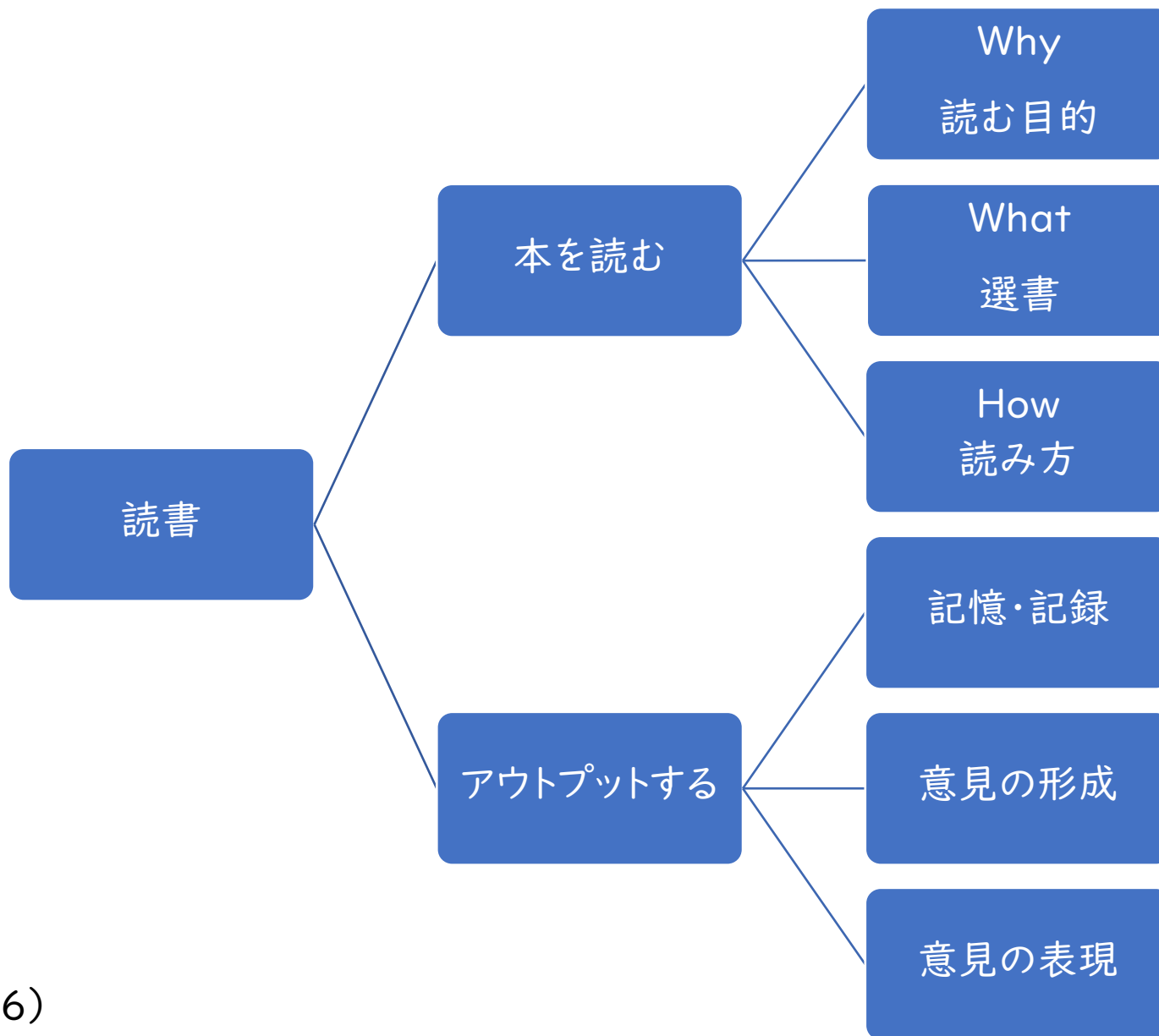
その他の工夫

- 書いたものを保管させる
- 書いたものを学生間で共有する
- 書いたものを試験に持ち込むことを認める
- 生成AIなどデジタル技術を活用する
- グループワークにライティングを取り入れる
- 全体へのフィードバックを行う
- 個別添削を公開する
- 可能な範囲で個別にフィードバックする

読む力とは？

- 読む力の扱いにくさ
 - どのような文献が読めればよいのか？
 - 教科書、入門書、学術論文…
 - 1つの文献、複数の文献
 - 読むべき文献を見つけるのも重要
- 読むスキルとは何か？
 - ざっと読む力、深く読む力
- 「読めている」状態をどう可視化するのか？
 - 正確な理解から適切な批判まで
 - コメント、レポート、口頭、レジュメ…
- 読む習慣そのものも読む力かも？

読む力のための指導とは？



読むと書くをつなぐ



スモールステップで捉える

→特に「要約」「引用」の指導が重要

- ・同じ文献でも要約が変わり得る

- ・直接引用と間接引用の使い分け

形式の説明だけでは不十分？

直接引用	間接引用
いつ使うのかが重要 文章の正確性が求められる 特殊、独自の先行研究 原文の表現に意味がある 批判や検証をおこなう	どう引用するのが重要 複数の文献を関連づける 再構成、パラフレーズ どこを削るかの判断

読み方の指導の実践

- 教員の読み方を説明する
 - 文献の探し方、読みのスキル、記録の仕方…
- 読むための授業
 - 演習、ゼミ、講読、輪読…

まとめ方を説明する

カリキュラムからの
アプローチ

カリキュラムの視点

初年次

・初年次授業

在学中

・各授業のレポート

最終年次

・卒業論文



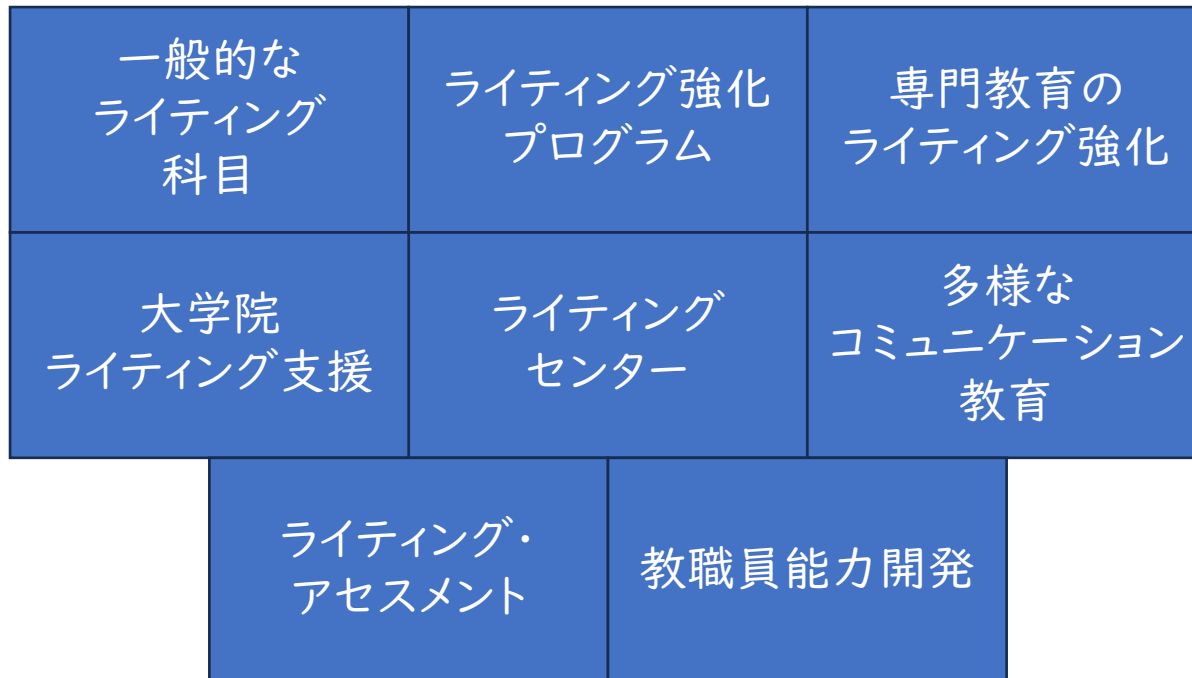
全ての学生を一定の水準に
教育の一貫性、体系的
一定の書く量、読む量

カリキュラムの構成要素

構成要素	説明
学習目標	カリキュラムで学んだ学生の変化
時間区分	学期、開講頻度、1コマの時間
授業科目の設定	授業科目、科目群の内容
授業科目の配列	授業科目、科目群の並べ方
教育方法	講義法、アクティブラーニング、実験、実習など
評価方法	評価のタイミング、評価課題、評価基準など
学生の履修の制御	履修のルール、CAP制など
専攻分野の決定方法	研究室、ゼミ配属のルールや成績基準
多様なニーズへの対応	多様な学生への対応など
学習支援	(主に) 正課外の各種支援、TAやSAなど
正課外活動の支援	準正課教育、留学など
他機関の教育との連携	連携課程、外部講座の活用など

書くを重視したカリキュラム設計

- Writing across the Curriculum(WAC)
 - ライティング指導科目だけでなく、専門科目等でも書く活動を授業やカリキュラムに体系的に組み込む取り組み (Bazerman et al. 2005)



高校までの書く力

- そもそも把握できているか？

左上：西森他（2015）

右上：

<https://news.yahoo.co.jp/articles/edbfe095668a4334c6d69f15493c8b8e8e605b8e>

下：日本財団（2020）

高校までの学習経験

- 国語、探究的学習など

左:伊藤(2025)

右:<https://www.youtube.com/watch?v=LAZMyqk3BiI>

高校国語の教材活用

評価基準を共有する

- コモンルーブリック

授業タイプによるコモンルーブリック

- 各授業での共通基準にもなる

量を確保するには？

- 書くも読むも、量が質に転化する側面も
- 書く量を確保するには？
 - Writing-Intensive Course
 - たとえば、「教養卒論」
- 読む量を増やすには？
 - 卒業までの必読書の提示
 - 読む授業の必修化

ポートフォリオの活用

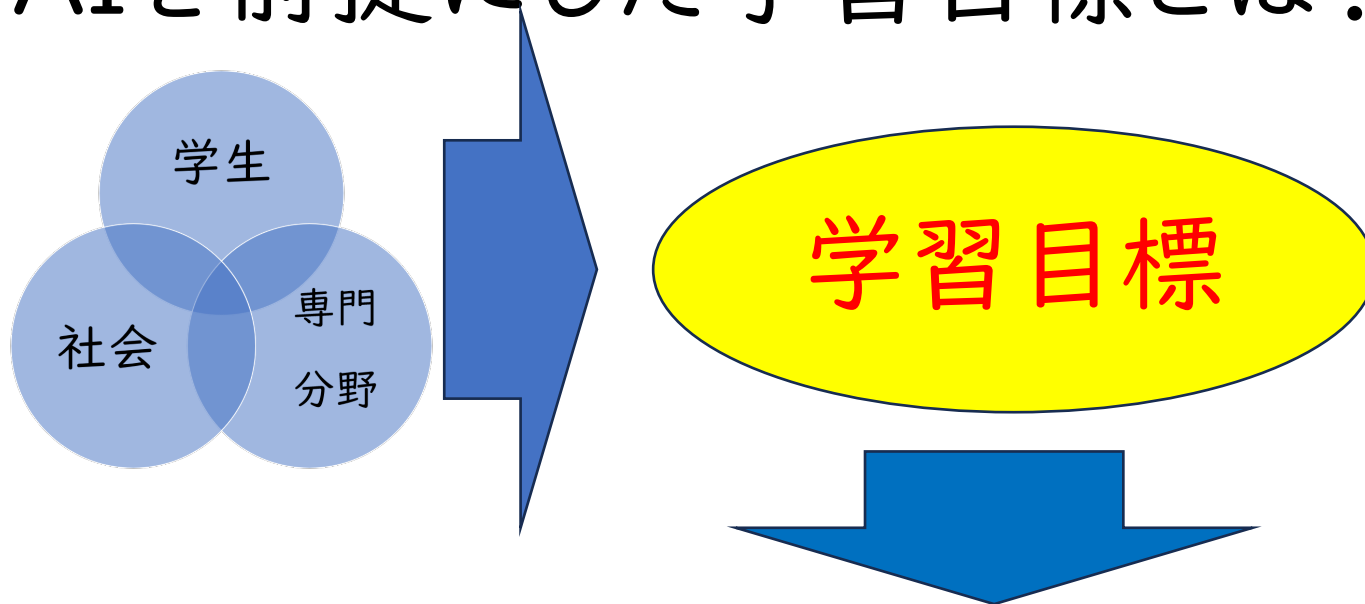
- Carleton Collegeの事例
 - 提出が必須
 - ライティングに関する振り返りエッセイも必要
 - ポートフォリオそのものも評価対象

基本要件

1. 完成したライティング・ポートフォリオには、カールトン大学の授業で作成した文章を3点以上5点以下収録しなければならない。
2. 収録する文章は、少なくとも3つの異なる学科またはプログラムの授業で作成したものでなければならない。
3. 同一の授業で作成した文章を2点以上提出することはできない。
4. 少なくとも1点は、明確な主張を中心に論証を展開した文章でなければならない。
5. 少なくとも1点は、複数の資料・文献を効果的に利用した文章でなければならない。
6. ポートフォリオには、750～1,000語程度の短い省察エッセイを含めなければならない。

AIを前提とした教育

AIを前提にした学習目標とは？



入学から卒業までに

いつ、どこで、何に、AIを使うか／使わないか？

AIについて何を伝えるのか？

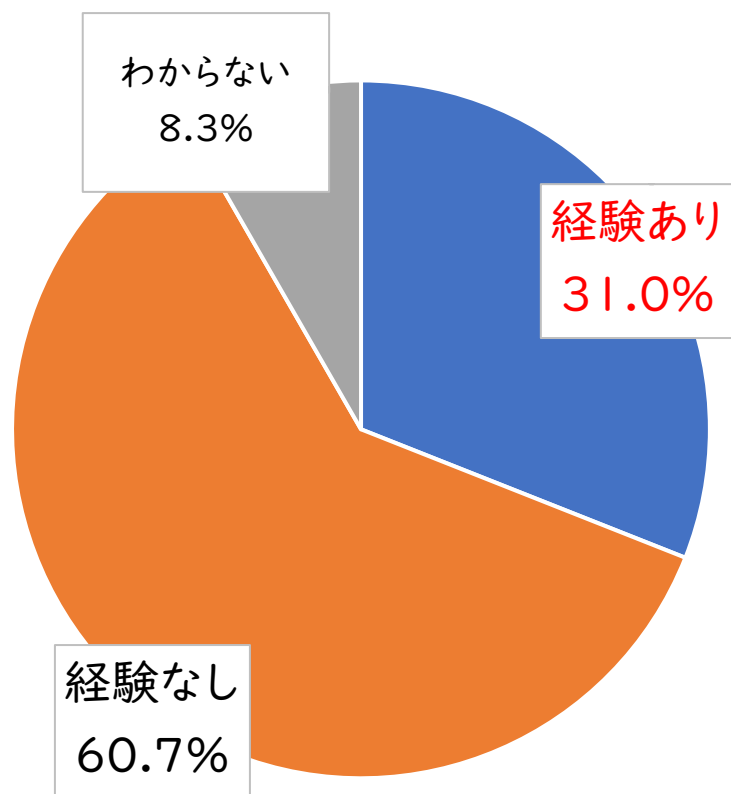
AIについて何を考えさせるのか？

AIの理解をどのように測るのか？

を組織として考える

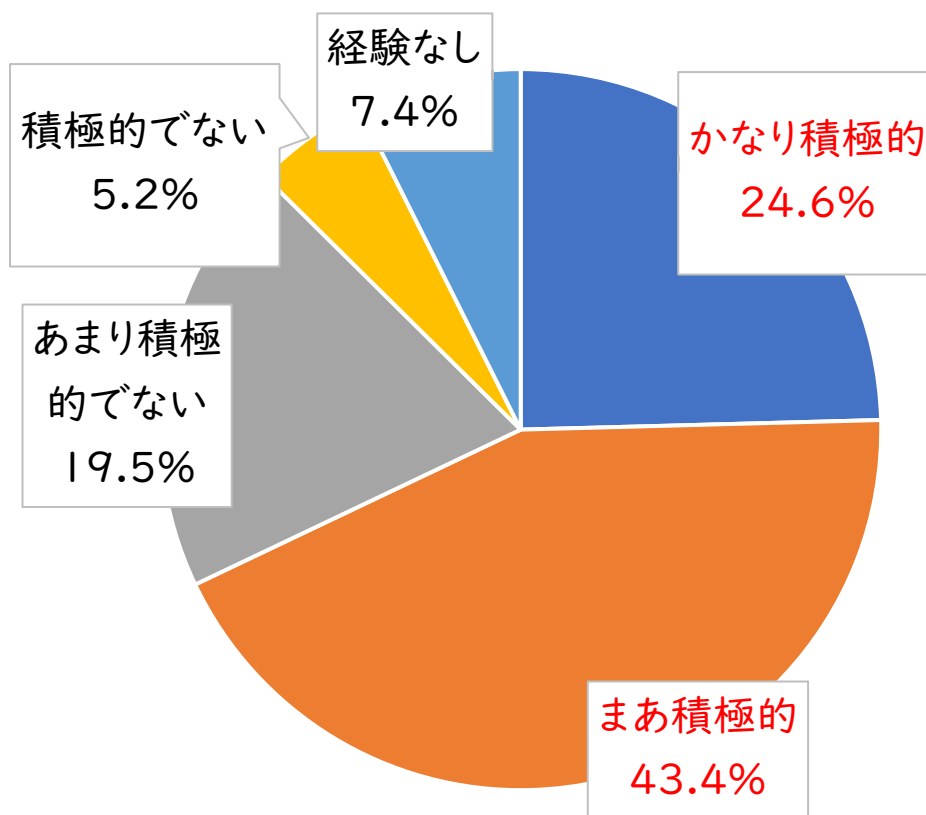
愛大生とAI

R8年度新入生



(入学まで) 教員の指導のもとでの
生成AI技術の使用

R7年度卒業生



生成AI技術の活用

右:「愛媛大学令和7年度卒業予定者アンケート」
左:「愛媛大学令和8年度新入生アンケート」

入学までの使用

AIをどう使っているか？

企業が求める知識やスキル

AIと論文執筆

AIと論文執筆

AI使用の判断のために

- 学協会の方針
 - 日本の学協会ではまだ少数の事例しかない
- 学術出版社の方針
 - Elsevier、Wiley、Sageなど…

AI使用の方針を出している国内学協会

環境経済・政策学会、言語処理学会、日本科学教育学会、日本経営倫理学会、日本広報学会、日本心理学会、日本森林学会、日本総合学術学会、日本特別活動学会、日本発達心理学会、日本保育学会、日本めまい平衡学会、日本作業療法士協会、日本耳鼻咽喉科頭頸外科学会、日本小児科学会、日本神経学会、日本水環境学会、日本性感染症学会、日本熱傷学会、日本麻酔科学会、日本原子力学会

- 医学系など共通の方針があることも

説明責任が果たせるか？

- 何に、どのように使ったかを説明する

日本経営倫理学会

日本めまい平衡学会

本研修の目標

- 目標（シラバスから）

- 1. 自身のライティング指導（ライティング支援）における目標を具体的に定めることができる。
- 2. ライティング指導の留意点や工夫の方法を1つ以上挙げることができる。
- 3. 学生の読書の量と質を高める方策を挙げることができる。
- 4. 書くことと読むことの指導における生成AI利用の方針を挙げることができる。

- 構成

- 書く力と読む力を高める授業と支援
- カリキュラムからのアプローチ
- AIを前提とした教育

ふりかえり

- 本研修で印象に残ったことや今後実践してみたいと考えたことをまとめてください。

参考文献

- ・ 伊藤奈賀子(2025)「高校国語科「論理国語」におけるレポート作成」『名古屋高等教育研究』第25号、pp.241-257
- ・ 井下千以子(2008)『大学における書く力考える力ー認知心理学の知見をもとに』東信堂
- ・ 岩崎千晶(2020)「ITTPC による国際チューター認証資格に基づくライティングチューターの育成方法」『関西大学高等教育研究』第11号、pp.43-54
- ・ 落合陽一(n.d.)「先端技術とメディア表現 I #FTMA15」講義資料
- ・ 小林忠資、鈴木玲子編(2018)『アクティブラーニングの活用』医学書院
- ・ 清水栄子、中井俊樹編(2022)『大学の学習支援 Q&A』玉川大学出版部
- ・ 数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム(2023)「数理・データサイエンス・AI人材ニーズ調査結果」
- ・ 全国大学生生活協同組合連合会(2023)「これからの教育と研究ー大学生協教員調査集計結果報告」
- ・ 谷美奈(2021)『「書く」ことによる学生の自己形成ー文章表現「パーソナルライティング」の実践を通して』東信堂
- ・ 東京大学社会科学研究所、ベネッセ教育総合研究所(2025)「ダイジェスト版 子どもの生活と学びに関する親子調査」
- ・ 中井俊樹編(2022)『カリキュラムの編成』玉川大学出版部
- ・ 中井俊樹編(2015)『アクティブラーニング』玉川大学出版部
- ・ 中崎倫子(2026)『読書思考トレーニングーAI活用でロジカルにアウトプットする技法』筑摩書房
- ・ 中村かおり、近藤裕子、向井留美子(2018)「アカデミック・ライティングにおける間接引用で求められる要約とは」『日本語教育方法研究会誌』25巻、pp.10-11.
- ・ 名古屋大学教養教育院・高等教育研究センター(2021)「アカデミックライティングを指導する教員のためのハンドブック」
- ・ 西森章子、三宮真智子(2015)「高校生における「自分の考えを書くこと」への問題意識」『大阪大学教育学年報』20、pp.119-125
- ・ 日本財団(2020)「18歳意識調査「第30回ー読む・書くー」要約版
- ・ 野田春美、稲葉小由紀、岡村裕美、辻野あらと、藤本真理子、米田真理子(2014)「大学生が習得すべき文章表現力とはー社会人を対象としたアンケート調査報告」『教育開発センタージャーナル』5号、pp.57-71
- ・ 乗添凌太郎、竹下優花(2026)「大学生のAI活用の現状と今後の方向性」『カレッジマネジメント』248号、pp.38-41
- ・ 吉田文、濱中淳子、渡邊浩一編(2025)『専門書を読むー教員と学生でつくる10講座』ミネルヴァ書房
- ・ Beaufort, A. (2007). *College Writing and Beyond: A New Framework for University Writing Instruction*. University Press of Colorado.
- ・ Bazerman, Charles, Joseph, Little, Lisa, Bethel, Teri, Chavkin, Danielle, Fouquette, & Janet, Garufis. (2005). *Reference Guide to Writing Across the Curriculum*. Parlor Press
- ・ Kwon, Diana(2025) “A Nature survey of 5,000 researchers finds contrasting views on when it’s acceptable to involve AI in research papers and what needs to be disclosed.”, *Nature*, vol.641, 575-578.